

平成 30 年度 部長・監督会議 議題

日時：平成 30 年 11 月 17 日 18：00～

会場：名古屋市中企業振興会館【吹上ホール】第 4 会議室

参加者：船津様（愛院大）、松岡様（中京大）、松本様（東海学園）、小谷様（四日市大）
杉山様（愛大）、高須様（名工大）、鍋谷様（名経大）

【1】 部長監督から頂いたご意見に対しての今後の方針について

1. 部長監督について
2. 春、夏大会について
3. リーグについて
4. チャレンジ大会について
5. 審判について
6. 学連の運営について

【2】 質疑応答

【1】 部長監督から頂いたご意見に対しての今後の方針について

1. 部長監督について

- ①責任者の連絡先把握のため、団体登録時に部長監督の連絡先の登録も必須項目としてはどうか？（松岡様）
- ②各大学の部長、監督、コーチのいずれかの出席を求めたい。監督会みたいなものを作ってもいいと思う。せめて1部リーグ大学のテニス関係者は強制的な出席を求めたい。（船津様）

〈学連の提案〉

- ①団体登録時に責任者の連絡先登録を必須とし、それを元に名簿を作成いたします。
- ②以下の手順で部長監督会を設立してはいかがでしょうか？
 - 1. 本日も集まりいただいた監督方の中から一人ないし二人代表を選出。
 - 2. 連絡先登録と同時に、部長監督会への加入に同意するか否かを問う。
 - 3. 同意を頂いた方々で連絡先を共有。代表者の方から呼びかけていただき、グループラインを作成するなど、情報交換の場を設ける。学生から監督方への強制は困難なため、どなたかに取りまとめていただきたいと存じます。

2. 春、夏大会について

- ①春大会での四日市コートの使用、日程短縮により学生の負担を減らせないか。
 - 1 日目 MS1R (32 試合)・WS1R (16 試合)・WD1R (8 試合) 計 56 試合
 - 2 日目 MS2R (16 試合)・WS2R (16 試合)・MD1R (16 試合) 計 48 試合
 - 3 日目以降は、従来通り

(松岡様)

- ②夏大会で四日市コートを使用してはどうか（小谷様）

〈学連の提案〉

- ①四日市コートは使用いたしません。四日市コートは立地、交通網の点で不便が多く、選手、学連及び審判の移動を考慮すると、負担が大きくなります。10時試合開始が困難となる可能性もあります。
提案いただいた日程の短縮を行い、負担減を図ります。
- ②同様の理由から現行通り運営いたします。

3. リーグについて

①1部リーグの日程について。(松本様)

〈学連の提案〉

現行通り行います。3年前に男女の試合を同日に行い、前日練習含め、6日で全日程を完了していましたが、選手への負担増、審判要請の難化より現在の日程に戻りました。

②リーグ戦辞退校と入れ替え戦の取り扱いについて。(松本様)

リーグの来年の編成について。(松岡様)

〈学連の提案〉

2部以下エントリー会前に振り込み期限をもうけ、以下の2通りで辞退校を扱います。

- ・振り込みあり→出場とみなす。全試合棄権扱いとし、1段階降格。
- ・振り込み無し→出場辞退とみなす。次回出場は最下部スタート。

来年度編成は別資料①をご覧ください。

③熱中症対策に関して、ご検討いただけたらと思います。(名古屋大学 小池様)

〈学連の提案〉

両校同意の上であれば10時より早い時間の試合開始は現在でも可能です。早朝からの試合開始を推奨していきます。また、ダブルスのファイナルセットをスーパータイブレークに変更することで、選手負担の軽減を検討しています。

④1大学から複数チームのリーグ戦参加の現状の是正について

現在どの大学でも複数キャンパスにまたがっています。また、他地域所属の大学の参加もあります。医学部系についても、4年制ではないだけで、短期大学と何ら変わりはないはずです。1大学複数チームの参加は、大学間で参加機会に差が生じており、不公平でもあります。リーグ戦の本来の趣旨からおかしな状況です。(松岡様)

- ・愛知学院大学の2チーム(歯学部)
- ・日本大学国際関係学部、東海大学海洋学部(関東学生テニス連盟所属)
- ・常葉大学の2キャンパス(草薙、浜松)

〈学連の提案〉

現行通り扱います。同一の大学であっても、活動形態が完全に異なり独立した組織である以上、今からのチーム合併は困難と考えます。学部による学生同士の活動時間の違い、キャンパス同士の距離の問題もあります。

⑤ 2部以下のリーグ戦固定表について

現在は、開催スタート時期が夏大会前であり、夏大会終了後リーグ戦期間中に固定表が変更になります。これは、リーグ戦のオーダー規約のオーダーは第1戦に準ずるという事項に反してしまいます。リーグ戦のオーダー規約の見直し、日程の変更いずれかが必要になってきます。(松岡様)

〈学連の提案〉

現行通り扱います。2部以下リーグを夏大会前に開始しなければ日程が間に合わないため、日程の変更は行いません。規約の見直しを行わずとも、パンフレットの注意事項 9 にオーダー順位の変更があった選手の扱いは明記されています。

⑥ リーグ中の連絡、結果確認について

リーグ中、リーグ前に担当学連が連絡を取れない。

リーグ戦の結果がわからず次戦のオーダーが考えにくい。(鍋谷様)

〈学連の提案〉

リーグ当日は担当学連も自校のリーグあるいは練習である場合が多いと存じます。担当学連に連絡が取れない場合、お手数ではございますが、レフェリー、ディレクター等別の学連にご連絡ください。

リーグ戦の結果をリーグ各部のグループライン内で公開し、情報を共有します。

4. チャレンジ大会について

チャレンジの4年生の参加について

チャレンジの優勝者は、新進の予選が免除される制度がありますが、4年生が優勝者の場合はどうなりますか？

チャレンジに学年による制限がないため、4年生のエントリーは可能です。チャレンジの大会主旨とは違うようにも感じます。(松岡様)

1) 4年生のエントリーの可否

2) エントリー可の場合は、新進本戦 WC の制度見直し

〈学連の提案〉

現行通り扱います。チャレンジの大会主旨は春夏本戦に出場できなかった選手に本戦出場のチャンスを与えることであり、新進本戦 WC は副賞のようなものでそれ自体は目的ではありません。4年生が優勝した場合はシード最下位もポイントに準じて決定しております。

6. 学連の運営について

①雨天時での、試合中止の判断が少し早いと思います。

中止後、天候の回復があり、試合がおこなわれたケースがあったと思います。(小谷様)

〈学連の提案〉

試合中止の判断は当日朝に統一します。一日中止なのか、天候の回復を待つのかはレフェリーが最終決定を下します。

②一旦、ドローを掲載後の変更が多いと思います。

確認不足ですので、必ず他の人が確認後掲載してください。(小谷様)

〈学連の提案〉

現状既に複数人でのドロー作成、確認を行っております。数百人規模のドロー4つをミスなく完成させるのは非常に困難です。ご容赦下さい。1回目のホームページ掲載を仮ドローとし、訂正期間をはさみ、その後完成版を掲載いたします。

③コール変更について

コール変された選手が不利益(1日に3セットを2試合)になる。

実習・実験は、講義と同じであり変更は不可と思える。(小谷様)

〈学連の意見〉

現状 コール変更の対象

コール変更の対象となる事例は、冠婚葬祭、就活活動、学校活動(テスト、実習、実験、実技)に関するもの、その他大会レフェリーが認めたものとする。

※アルバイトはコール変更の理由として認められない。

テストや就活でのコール変で相手に不利益が生じるのは問題ないのでしょうか？単位或いは人生が関わるとい点では、実習・実験も同様である場合がございます。コール変をされた相手に不利益が生じることに問題があるならば、そもそもコール変という制度をなくす必要があります。コール変は学業と部活の両立を助けるための制度であり、学業を第一とするならば、コール変による不利益は互いに許容しあうべきと考えます。

〈学連の提案〉

個人のコール変の回数を以下のように定めます。

- ・予戦…一大会あたり単複各一回(ダブルスはペアで一回)
- ・本戦…回数制限なし(現行通り)

回数制限を設けることで権利を平等に近づけたいと考えました。本戦は平日が多いため制限なしとしました。

④本戦期間中の学連補助体制について

以前から、学連の方に言っていますが、学連負担減になると思います。

コートレフリーは、2名いますが、1名を学連 1名を補助者にしてはどうでしょうか。

〈学連の提案〉

補助員の要請は基本的に行いません。過去に補助員の要請を行いました、運営に無知な補助員を配置しても負担減とはなりません。

⑤リーグ戦、インカレ等の主審の質向上について（松本様）

⑥ルールの運用について

今年度から外部レフェリーが運営に入って頂けるようになりました。どのような指摘があったのかを教えてくださいたいと思います。

現在問題が発生する事項のほとんどが、以下の4点にあると考えます。（松岡様）

- 1 ポイント間の時間の長さ
- 2 ジャッジに対して外部からのクレーム
- 3 応援と選手とのコンタクト（アドバイスの疑い）
- 4 コードバイオレーション（ラケットを投げる、ボールを打ちつけるなど）

⑦コートレフェリーがルールを把握していない件について

選手と応援の間で感情の高ぶりによる多少の会話、アドバイスになる発言はまだ容認できるが、明らかな毎ポイントの会話やきわどいボールのジャッジを応援している選手に求め、応援している側がそれに答えていても黙認している。

予選・本戦でのトイレットブレイク中に選手とレフェリーが会話している。

選手の父兄に言われ 1 ゲーム目のチェンジコート間に差し入れをし言われた言付けをしている。

通りすがりの選手との明らかなる会話が多い。（鍋谷様）

〈学連の提案〉

審判、選手、応援の管理を改善していきます。審判、選手、応援について公認レフェリーの方からも同様のご指摘をいただきました。アドバイスをもとに以下のように対策を練りました。

・審判

昨年度まで使用していたものを元に、新たな審判マニュアルを公認レフェリーの方に作成していただきました（別資料②）。審判にはこのマニュアルを試合前に配布しています。今後は時間の測定と「タイム」のコールを徹底させます。できていない場合はコートレフェリーが随時指導に入ります。

- ・選手

水分やラケットの要求など必要最低限の会話を除き、不要なコミュニケーションをとっていた場合はコーチング違反とみなし、警告を与えていきます。フェアプレーの自覚を促すため、会場で張り紙による注意勧告を行います。

- ・応援

選手と同様、警告と張り紙で対応します。

⑧試合時間の変更が HP の OP に反映されない件について

LINE のみでの連絡は非常にわかりづらく、外部の人間が知る手段がない。

〈学連の提案〉

現行通り LINE での連絡を主体としていきます。

監督、コーチの皆様も我々学連が連絡を行っている「東海学生主将主務」という LINE のグループに参加してはいかがでしょうか？

⑨企業セミナーについて

2月の主将主務会議で企業セミナーを開催されています。また今年度は、春大会時に別室にてテニス業界セミナーを開催して頂きました。

このような場を設け、テニスを通じて進路を見つける機会が増えることは、非常に有意義なことだと思います。

以前はパンフレットを作成し、業者や企業様から広告を掲載し、掲載費を徴収していましたが、パンフレットを作成しなくなってからは、この収入がなくなってしまいました。春大会のようにセミナーの開催費および HP への広告掲載費を徴収するようになれば、企業にも我々にもメリットがあると思います。様々な分野の業界に参加して頂き、進路の拡大、収入の増加を図り、大学テニスをより魅力的な存在になって欲しいと思います。(松岡様)

〈学連の提案〉

2年前からパンフレットの作成を廃止し、支出が減少したため、予算面では以前より安定しています。学連側から企業を招くことは行いませんが、今年度同様依頼があれば随時対応させていただきます。

【2】その他